

# 本学初ランクイン

## 英誌 世界大学ランキング

THE世界大学ランキング(2016~17)にランクインした日本の私立大学

THE世界ランキング	国内大学順位	国内私大順位	大学名
351-400	7	1	豊田工業大
601-800	14	2	東京慈恵会医科大
			順天堂大
			慶応義塾大
			近畿大
			東京理科大
801-980	39	8	早稲田大
			千葉工業大
			中央大
			同志社大
			法政大
			関西大
			関西学院大
			明治大
			立命館大
			埼玉医科大
			芝浦工業大
			昭和大
			上智大
			東海大
			東京都市大
東京電機大			

英高等教育専門誌「タイムズ・ハイアー・エデュケーション」(THE)の「世界大学ランキング2016-17」が9月22日に発表され、本学が初めてランク入りを果たした。選ばれた上位980校に入った日本の大学69校のうち私立大学は22校。本学のランキングは「801位以降」で、産業界からの受託研究費獲得額や国際的に引用された英文論文数、国際性、教育環境などで高い評価を得た。



世界に肩を並べる大学へ(津田沼校舎・赤煉瓦門から)

日本の私大は22校選出 THEの世界大学ランキングは2004年から毎年秋に公表され、英語圏の大学関係者の国際交流の場では「貴学はTHE E何位ですか？」があたりさつ代わりになっているほど。受験生が進学大学を選択する際にも世界的に影響を与えている。重視されている評価項目は「教育環境」「国際的に権威のある学術雑誌への英文論文発表数」「引用された英文論文数」「産業界からの受託研究費」「国際性」など。本学では、小宮一仁学長が就任早々の平成24年7月から、国際的に認められる「大学力」の基準としてTHEの評価項目を掲げ、ランク入りを目指して、昨年(20

# 引用論文数など評価

日本の私大は22校選出 THEの世界大学ランキング

キングは2004年から毎年秋に公表され、英語圏の大学関係者の国際交流の場では「貴学はTHE E何位ですか？」があたりさつ代わりになっているほど。受験生が進学大学を選択する際にも世界的に影響を与えている。重視されている評価項目は「教育環境」「国際的に権威のある学術雑誌への英文論文発表数」「引用された英文論文数」「産業界からの受託研究費」「国際性」など。本学では、小宮一仁学長が就任早々の平成24年7月から、国際的に認められる「大学力」の基準としてTHEの評価項目を掲げ、ランク入りを目指して、昨年(20

**NEWS CIT**  
2016  
10.15  
ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部  
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2丁目17番1号  
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344  
<http://www.it-chiba.ac.jp/>  
毎月1回(8月を除く)15日発行

### ニュースガイド

- 2面 澤谷さん優秀ポスター賞/PM関係3人奨励賞/友納副所長、入江主任 研究員ROBOMEC表彰/津田沼 高と協定/東京高専と協定/チュラ ロンコン大薬学部と協定
- 3面 「ロボバ!」快調発達/「櫻宅」で 宇土市役所内部調査
- 4面 「スクラム」グッドデザイン賞/5 研究室が「袖団」ウイーク/校友「大 塚勇さん」
- 5面 本学で日仏教育学会/前期グッド・ レクチャー賞/実験動物慰霊祭/校 友「山内浩一さん」
- 6面 能代宇宙イベントでPERCを紹介 /習志野市民まつりに電気研が講座 /新任紹介/訃報

THE世界大学ランキング 日本の大学で上位200位以内に入ったのは東大(39位)と京大(91位)。ランキング201位以下は100~200位単位で公表され、細かな順位は示されない。ランク入りした日本の私立大学のうち、医学部がないのは15大学。私立の理工系では本学のほかに豊田工大、東京理科大、芝浦工大、東京電機大が入った。ちなみに日本の全大学数は779校、うち私立大は604校。

15~16年)初挑戦。今回2度目の挑戦で栄誉を勝ち取った。気、単結晶、信号処理、完全吸収などが挙げられる。

さまざまなデータを分析すると、本学発の英文論文で既に国際的に高い評価が得られている研究分野のキーワードとして、地質学・土質学、太陽系、地球科学、大地震、ロボティクス、中性子星、状態方程式、肝炎ウィルス、RNA、磁

### 「より上位へのスタート台に」

小宮学長

私が学長に就任した直後の平成24年7月5日に開催された合同教授総会での所信表明で、私はTHE世界大学ランキングにおける評価項目をもとに大学力の基準を先生方に説明し、それらを向上させるための協力をお願いして、ランク入りを目指して掲げました。

その後、私自身がロンドンに赴き関係者から情報を収集し、ポイントとなるデータの大学からの積極的な発信に努めました。さらに評価を向上させるためのさまざまな施策を実施してきました。

今回のランク入りは非常に名誉なことであると同時に、難しいことでもありました。それが達成できたのは、「世界文化に技術で貢献する」という建学の精神のもと、瀬戸熊修理事長をはじめとする法人の方々、そして教員・職員が一丸となって本学の向上のためにご尽力くださったという賜物であり、感謝しています。

今後は新しく開設された人工知能・ソフトウェア、国際金融、次世代海洋資源の研究センターからも千葉工大発の世界レベルの研究成果が出てくると期待されますから、私としてはより上位のランク入りを目指すスタート台に立てたと思っております。



① 講義棟7号館の外観デザイン  
② その内部



くわを入れる瀬戸熊理事長(奥)と小宮学長

## 新7号館建設へ 新習志野で地鎮祭

魅力ある大学づくりへ 新築工事の地鎮祭が行われ、再開発が進む新習志野キャンパスの旧食堂跡地で、9月28日、講義棟7号館・購買が入っていたが、

4月に新食堂棟・購買、体育館などが別の場所に完成。旧7号館を当初は改修して講義棟にする予定だったが、経費や構造上の問題を検討した結果、新しく建て直す運びとなった。

地鎮祭には瀬戸熊修理事長、小宮一仁学長ら大学関係者、設計・施工の代表者たちが出席。全員で工事の安全を祈願した。

新講義棟は鉄骨造り2階建て、延べ床面積約3170平方メートルで完成予定は来年8月。180人教室3室、150人教室3室、70人教室4室、演習室1室が配置されることになる。

# 澤谷さん優秀ポスター賞

## ▼OCCプロセスで製造した合金の評価研究

金属材料の国際会議「第9回環太平洋先端材料とプロセスング国際会議(PRICM9)」(8月1~5日、京都市左京区の国立京都国際会館で開催)で澤谷拓馬さん(機械サイエンス専攻 修士2年)が「加熱鋳型連続鋳造法OCCプロセスを用いて作製したAl-Fe合金の一方向凝固組織と結晶方位」を英語でポスター発表し、Excellent Poster Award for Young Scientist(若手科学者優秀ポスター賞)を受賞した。



澤谷さんはOCCプロセスでAl-Fe合金を作製し、優位性を評価した。自動車のワイヤーハネスを英語でポスター発表し、Excellent Poster Award for Young Scientist(若手科学者優秀ポスター賞)を受賞した。

に精通します」と語った。PRICMは環太平洋5カ国(日本、中国、韓国、オーストラリア、米国)の金属材料関係学会が1992年から約3年ごとに共同開催。今回は日本金属学会が主催し、本で初開催された。

## 友納 副所長 ROBOMEC表彰

### 入江 主任研究員

#### ▼移動ロボット 自己位置推定の新手法

未来ロボット技術研究センター(fuRo)の友納正裕副所長と入江清一主任研究員が昨年3月、第20回ロボティクスシンポジウムで発表し優秀論文賞を獲得した「2次元市街地図を用いた初めて訪れる場所における自己位置推定—二乗損失相互情報量による手法—」が、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門の2016年度ROBOMEC表彰論文に選ばれた。同部門講演会2016(6月8~11日、神奈川県横浜市の大さん橋ホールで開催)で表彰された。



友納副所長



入江主任研究員

論文は、Google Mapのような既存の市街地図を用いて移動ロボットの自己位置を推定する新手法を提案したものの、統計的依存性を最大化して、従来必要だった事前情報や物体認識を用いず直接、自己位置推定条件を▽親密度▽旅行目的(対象・手段含む)▽費用▽体力—と設定。旅行目的・手段の一致性、計画者との親密度などをレベル化、数値化していった。そして目的・必要費用・必要徒歩移動距離からなる「卒業旅行ベクトル」を設定。次に、同じ要素と親密度からなる「同行候補者ベクトル」を設定し、卒業旅行ベクトルとのユークリッド距離を求める。その値が小さい者順に同行者の人数分だけ選定すればよい、というのが考え出した方式だ。

## PM関係3人奨励賞

### ▼秋季研究発表大会で齋藤さん、細谷さん、玉田さん

プロジェクトマネージャ学会の2016年度秋季研究発表大会(9月1、2日、広島市の広島修道大で開催)で、本学の齋藤みいるさん(マネジメント工学専攻1年)、武田善行研究室、細谷直紀さん(プロジェクトマネージャ専攻3年)、下村道夫研究室、玉田亮さん(同)の3人が研究発表し、ともに学生研究発表奨励賞を受賞した。研究内容と受賞の感想は以下の通り。



★齋藤みいるさん  
「係り受け関係にある単語の組合せを考慮したP/N分析法の提案」

普段使われる文書内から単語のペアを作成することで、その文書が肯定的な内容か否定的な内容を分類する研究をした。ウェブ上のブログなどに登場する意見は量が大で、さまざまな方法で整理が行われている。P/N(ポジティブ・ネガティブ)分析は文書の内容が肯定的か否定的かで分類する。齋藤さんらはその識別向上を狙った。従来は単語一つずつに



★細谷直紀さん  
「P/Bにおける心の持ち方」

「P/N値を割る当てる分析法だった。齋藤さんは単語と単語の修飾・被修飾といった係り受け関係を着目し、単語のペアを作成する方法で識別向上を図った。例えば「最悪な」の語は単独で使うより「対応」と組み合わせると、より否定値が大きくなった。「大きな」は肯定値だが、「ごみ」という語を組み合わせてみると逆転して否定値となった」など。今回は形容詞との組み合わせを主体にしたが、今後は名詞・動詞などに広げていく。「なんとか受賞でき、



★玉田亮さん  
「卒業旅行プロジェクトにおける同行者選択方法の提案」

「正直、自信がなかった。驚きとうれしさが混じっています。受賞はとても光栄で今後の励みになります」

が可能なことを示した。ROBOMEC表彰は、該当年度に高い評価を得た論文著者を顕彰している。入江主任研究員は「(同一論文で)重ねて大主要学会に計測自動制御学会、日本機械学会、日本ロボット学会が1回共催するロボット学で最高レベルの国内会議。口頭発表された論文が査読審査され、最優秀論文賞1件と優秀論文賞1~2件が決まる。」

## 津田沼高校と工学系に限らず高・大連携で人材育成協定

### ▼工学系に限らず高・大連携で人材育成協定

本校は8月2日、千葉県立津田沼高校(習志野市秋津五丁目)安田一夫校長、生徒数約千人)と高校側は在校生が大学教育・研究に触れることで、学ぶ意義や将来の夢に目覚めてもらいたいと希望。本学は教育連携で地域社会の人材育成に寄与したいと考えた。



津田沼高は本学津田沼、新習志野のどちらのキャンパスからも近い中間に位置する。今後、工学系に限らない高等学校との高大連携で新たな可能性を探る。締結式は本学津田沼舎1号館20階ラウンジで行われ、安田校長(写真右)と小宮学長(写真左)が協定書にサインし握手を交わした。

## 東京高专とも協定

本校は9月30日、国立高等専門学校機構東京工業高等専門学校(東京都八王子市)新保幸一校長、生徒数約千人と包括的な連携協定を締結した。国際的に活躍できる有能な工科系人材を地域で育てるため教育・研究活動全般に係るもの。締結式は本学津田沼キャンパスで行われ、小宮一仁学長と新保校長が締結書を交わした。

## チュラロンコン大薬学部と交流協定

小宮一仁学長は9月22日、タイ・バンコクを訪れ、チュラロンコン大薬学部サークルチームと交流協定を締結した。本学と協定を締結した海外大学はこれで16カ国・地域31大学となった。チュラロンコン大はタイ最古の最も権威ある国立大。18学部と種々の研究機関がある。交換留学など幅広い学術交流が期待されている。

# 「ロボパ!」快調発進

▶ 長野、仙台、福岡で子どもたちに人気



長野の会場でロボットを説明する古田所長



電動車イスにも子どもたちは興味津々



仙台の会場で親子に語りかける古田所長



福岡市の開催予告ポスター

ロボットにさわって、知って、一緒に学ぼうよ！  
未来ロボット技術研究センター（furo）の古田貴之所長が最先端口

ロボットの美演を交えて、分かりやすく面白く、ロボットの魅力を子どもたちに語りかける新たなイベント「ロボパ！」が10月2日長野市、同16日仙

台市で開催され、会場定員を上回る申し込みを集めて大盛況だった。「ロボパ！」は「ロボットパーク」の略。2004年からfuroが各

地で開催してきた「ロボット解体LIVE」の後継イベントで、主な対象は小・中学生。

長野市で会場に当たられた長野放送NBSホールには、furoが開発した災害対応ロボットの「櫻志號」が、未来のパーソナルモビリティ「ILY-A」や、どんな方向にも移動可能な「全方向移動型電動車イス」が

未来のパーソナルモビリティ「ILY-A」や、どんな方向にも移動可能な「全方向移動型電動車イス」が運び込まれ、子どもたち

を待ち構えた。古田所長はこれら自慢のロボットをユーモアを交えながら紹介し、夢を持って一生懸命に頑張れば、だれでも将来、こんな優れたロボットを作れると訴えかけた。

講演後の実演では、古田所長が「外国ではゴキブリと呼ばれた」と紹介した「Halluc II」のユーモラスな動きや「櫻志號」「櫻式號」の急な階段の昇り降りに、子どもたちは目を輝かせ、歓声を上げていた。

## 「櫻志號」で内部調査

▼ 熊本地震被害の宇土市役所 藤井教授とfuroチーム

熊本地震（今年4月14、16日）で崩壊寸前の被害を受けた熊本県・宇土市役所の内部被害を解明するため、建築学科の藤井賢志教授と未来ロボット技術研究センター（furo）の古田貴之所長、吉田智章主席研究員、西村健志研究員のチームが6月14日、現地で本庁舎の内部調査に挑んだ。

宇土市役所は鉄筋コンクリート5階建て。上部が大きくゆがみ危険なため立ち入り禁止となった姿はニュースでたびたび報道され、市は再建に向けて義援金を募っている。

月末、現地に赴き「外観から見た限り、南面と西面の4階が著しく壊れているのに、3階以下で目立った被害が生じていない。加えて、北東側の階段棟の方はあまり壊れていないのが特徴的。被害が大きいと考えられる4階内部を調べたい」と希望。これを受け、古田furo所長が指揮して吉田主席研究員を中心に、災害対応型ロボット「櫻志號」による内部調査計画を立てられた。

内部調査は宇土市役所が全面協力、フジテレビ系列報道番組「サンデー」取材班と共同で実施された。「櫻志號」を西村研究員が操縦し、調査は2時間以内と厳しい制約の中、着々と任務をこなした（調査ビデオはfuroホームページ内

http://www.furo.org/ja/works/sakura/movie.htmlで公開中）。「櫻志號」が撮影した内部を3D画像化して分析した結果、本庁舎事務棟4階の中柱が著しく損傷して縮み、4階天井が1センチ近く下がり、5階床が平均で6度傾斜していた。また4、5階の事務

棟と階段棟をつなぐ床が著しく損傷していたことが判明した。

一方、建設当時（1960年代）の図面から「本庁舎は、上階ほど柱のサイズが極端に小さく

なっている」と藤井教授は指摘。これと内部調査結果を併せ、被害に至るシナリオを「本庁舎は、壁が多

い階段棟と壁のほとんどない事務棟が床でつながり、4階と5階の床は、事務棟から階段棟に地震力を流す役割をしていたが、本震時に伝えきれないくらい大きな力が作用して損傷した」と推測した。

藤井教授は「建物にこれだけの被害が生じながら、本震発生が人のいない深夜だったのは不幸中の幸い。日本中に、宇土市役所のように古い耐震基準で建設された建物が数多く残っている。建て替えや補強など地震対策をどう考えるか。昔から言われていることではあるが、非常に重要な課題」と話している。

長野と仙台での開催に当たっては、会場の集客に本学OB、同窓会会員の多くの協力を得て、両会場とも満員の盛況となった。また、熊本地震で倒壊の危機にさらされた熊本県宇土市庁舎の内部検証に本学建築学科の藤井賢志教授が当たり、furoが「櫻志號」を投入したことから、同市も後援に加わっている。

藤井教授は地震後の4



「櫻志號」を操縦する(机の前列手前から)西村研究員、吉田主席研究員、古田所長、藤井教授



「櫻志號」が捉えた、天井が崩れ落ちた宇土市役所の内部

「櫻志號」が捉えた、天井が崩れ落ちた宇土市役所の内部

「櫻志號」が捉えた、天井が崩れ落ちた宇土市役所の内部

# 「スクラム」にグッドデザイン賞

▶長尾研開発 アクティブラーニング家具



2016年度グッドデザイン賞(日本デザイン振興会主催)の受賞作品が9月29日、発表され、

本学デザイン学科・長尾徹研究室と(株)イトーキ(東京本社)東京都中央区が共同製作したアクティブラーニング用家具「スクラムシリーズ」が本紙1月15日号4面で紹介・写真IIがグッドデザイン賞の1つに選ばれた。国内外のデザイナー、建築家ら76人からなる審査委員会は「チェア、デスク、ラックが一体となって個人単位で機能することが新しい。産学協同の成果」と称賛した。「スクラム(Scrum)」は長尾研が、ゼミや図書館などのオープンスペースで学生が主体的に学ぶ「アクティブラーニング」が促進されるよう考案。昨年11月から一般販売されている。じかにメモできるホワイトボード天板、低めのテーブル、A3サイズの個人天板、キャスター付きチェアなどで構成。ノートPCやタブレットが使いやすい、ゼミやグループ討議、講義など要求に応じて自由に集合離散できる。今回は4085件が審査対象となり、約5カ月間審査された結果、1229件の受賞が決まった。審査会は日本のほか韓国、台湾、香港でも実施された。

## 5研究室が「袖団」ウィーク

▼団地活性化を住民と考える

習志野市・袖ヶ浦団地(袖ヶ浦二、三丁目の活性化を住民と一緒考える「夏の袖団活性化ウィーク」が9月15、18日、団地内で開かれた。習志野市と管理事業主の都市再生機構(UR)、本学の3者が2014年から進めている「袖ヶ浦団地活性化プロジェクト」の一環で、昨年(2015)に続き2度目。本学の5つの研究室・創造工学部建築学科の田島則行研究室、都市環境工学科の鎌田元弘、佐藤徹治研究室、デザイン工学科の倉斗綾子、稲坂晃義研究室が合同で開催した。UR袖ヶ浦団地は本学津田沼、新習志野の両キ



「袖団コミュニティ・シンポ」には団地住民も参加



「ぶっくる」は「BOOK」と「来る」をつなげた名称。団地の人が自由に本を持ち寄り交換・交流する場に、と発想。本以外の物にも活用できる

ヤンパスのほぼ中間に広がる大団地で、日本住宅公団時代の1967(昭和42)年に入居を開始。現在戸数2990戸。建物の老朽化と住民の高齢化で空き室が増え、商店街に空き店舗も目立つ。本学は活性化について田島研を中心に、学生が団地に共同で部屋を借り(シェアハウス)、空き店舗を交流の場に運用する、などを計画。今年4月、学生(男2、女3人)が1室ずつを借りてシェアハウスを始めた。学生たちは夏の盆踊り大会に参加したりお年寄りの交流を目指し、「仲間意識」が芽生えているという。本学では毎春、新入生を中心に約2千人が部屋を求めており、袖ヶ浦団地が「準学生寮」になることも期待される。研究室の学生たちはイベント3日目の「袖団コミュニティ・シンポ&フェス」で▽本学学生寮の寮生と団地住民のニーズ調査(鎌田研究室)▽団地生活の満足度に関する実態調査(倉斗研究室)▽シェアハウス拡大を視野に団地での生活ぶりを語った。

また昨年度、稲坂研が提案した移動式大型本棚「ぶっくる」が団地街路に設置され、住民の関心を集めていた。

## 活躍する 校友

エプソンアトミックス株式会社社長

おつかいさま 大塚 勇さん (49歳)

(平成4年、金属工学専攻大学院卒)

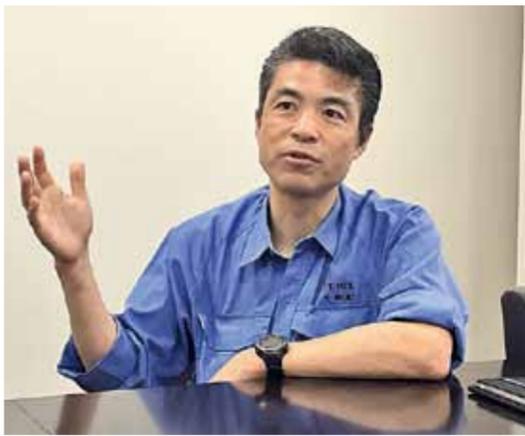
「粉って生きものなんです」。粉は粉でも数十、数百ミクロンの微細合金粉末だ。その技術がいかに人間社会に貢献しているか。セイコーエプソングループに属するエプソンアトミックス株式会社の社長(青森県八戸市)で素材サイエンスの面白さを聞いた。

「粉って生きものなんです」。粉は粉でも数十、数百ミクロンの微細合金粉末だ。その技術がいかに人間社会に貢献しているか。セイコーエプソングループに属するエプソンアトミックス株式会社の社長(青森県八戸市)で素材サイエンスの面白さを聞いた。学内のコンピューターをフルに使い、アルミニウム再結晶粒子のシミュレーション(修士論文)に根を詰めていた修士課程2年次の思い出で

「伝導性に優れ、電子機器の部品素材などに応用されている」。12年目、転職が訪れた。男優の柴田恭兵さん似のマスクと歯切れの良さから、研究所労組支部の委員長に担ぎ上げられるなどしたが、研究所は「経営に寄与すること少ない」と廃止。開発したアモルファス合金粉末の新規ビジネスを続けるか否か「悩んだ末」、元看護師の奥さんと男の子2人を伴い2004年、エプソンアトミックスへ移籍した。「関西と同じく八戸も

とも小さいという。それでもコピーは横行する。ただし、純正品を作る会社はほとんどない。つまり国内外のシェアは100%。世界から八戸へやって来る。製品の価値は欠乏したときほど高くなる。東日本大震災(2011年3月11日)。八戸港に近い本社工場は約1/3の津波に襲われ、設備はほぼ全滅した。技術開発部長として米国サンフランシスコで顧客対応中の大塚さんはすぐ帰国。親会社などの応援を受け1カ月半で一部操業再開にこぎつけた。「製造不能と知っているのに注文だけは入ってくるんですよ」。その年、取締役に、今春には社長に昇格。加えてこの夏、インクジェットプリンターでは国内トップ級の親会社、セイコーエプソン株式会社(本社・長野県諏訪市)の執行役員も仰せつかった。仕事の傍らIEEE(電気工学・電子工学技術の学会、本部・米国)などに属して先端開発に目を注ぐ。モットーが面白い。「オンリーの技術でNo.1の製品をつくる」。実際はオンリー商品のだが、それをうたと顧客が万一の供給途絶を心配するからという。

## 進化は素材から 微細合金粉末で世界一へ



「オンリー1の技術でNo.1の製品をつくる」と大塚さん

ある。論文をまとめ、農業機械で有名な「クボタ」(本社・大阪市)へ。基礎研究を志望した。兵庫県尼崎市にあった中央研究所で取り組んだのがアモルファス(非晶質)合金。金属は通常、原子が規則正しく並び(結晶構造)、強度だ。ところが1700度の高温で溶かした金属溶液をミスト化して水で超急冷すると微小粉末へ一変する。固体なのに原子配列は液体のように不規則。電磁気特性やエネルギー

初めての土地。好きなことをできるのが一番だった。移って3年間、「新規ビジネスは赤字」。しかし、アモルファス技術の確立と販路開拓に腐心、世界初の量産化に成功した。雌伏の間、大塚さんは東北大学大学院(仙台市)へ社会人入学し、『SWAP法によるアモルファス軟磁性粉末の作製とその加圧成形磁心の磁気特性に関する研究』で博士号を取得。努力の人である。

この技術のマーケットはも

「ぶっくる」は「BOOK」と「来る」をつなげた名称。団地の人が自由に本を持ち寄り交換・交流する場に、と発想。本以外の物にも活用できる

また昨年度、稲坂研が提案した移動式大型本棚「ぶっくる」が団地街路に設置され、住民の関心を集めていた。

クボタで芽を吹いた新規ビジネスも本格軌道に乗り、2025年までに年間生産量を今の3倍の約6000トへ増やす新工場を八戸市内で今秋着工する。トレーニングジムでストレスを解消する時間は削られそう。

# 橋口教授が理工系教育説明

▼日仏教育学会 本学で初開催

フランスの教育を研究する大学教員などで構成する「日仏教育学会」の2016年度研究大会が10月2日、新習志野キャンパスで開かれた。写真左。



本学では初開催のこの大会は、同学会の理事で創造工学部教育センターの古賀毅准教授が開催委員長を務め、各地から約50人が参加。大学での「教育」の課題や可能性について、日仏両国の事例を通して考察した研究成果の発表とシンポジウムが行われた。

本学からは橋口秀子教授（工学部教育センター・写真右下）が「理工系大学における数学教育の

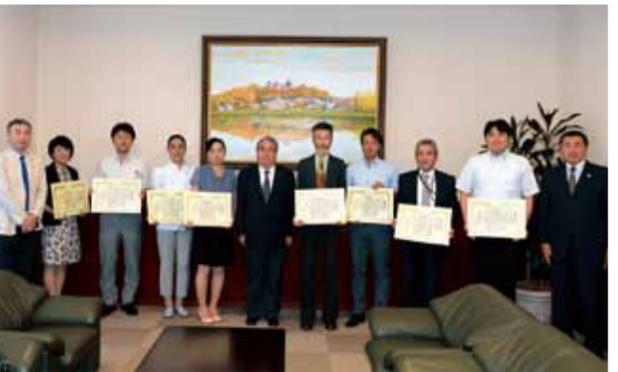
課題と学力向上への取り組み」（花田孝郎教授／星野慶介准教授との共同研究）と題して発表。参加者から、私立大学の比重が高い日本の大学教育が抱える大きな問題「学生の学力格差の是正」に長年にわたって正面から向き合い、学力向上に地道に取り組んできた姿勢に称賛の声が聴かれた。

注目されたのはフランス・ポワティエ大のロミユアルド・ポダン准教授の基調講演。「フランスの大学における教授法、学生の歩みと学問分野ごとのマトリックス」と題したこの講演で同准教授は、統計などを駆使した分析や調査で学問分野（ディシプリン）がそれぞれ持つ固有の背景や特徴を明らかにしたうえで、各分野に特徴的な教え方があること、従ってともすれば画一的になりがちな教授法の研究も学問領域ごとに整理し、深化させるべきだと示唆した。



大会後の懇親会であいさつした小宮一仁学長は「土木工学はローマ時代からあるが、長い間単なる技術に過ぎなかった。これを学問として体系化したのは18世紀のフランスである」と、自分の専門を例に引きながら、「本学は国際化を積極的に進めており、フランスを含めて世界とますます活発に交流していきたい」とアピールした。

## 前期グッド・レクチャー賞10人



平成28年度前期のグッド・レクチャー賞に10人が選ばれ、小宮一仁学長から表彰された。写真このあと後期の授業アンケート結果と合わせ、ベスト・ティーチャー賞が決定する。前期グッド・レクチャー賞受賞者とその講義は次の通り。

- 米田完教授「ロボット制御学」
- 「ロボットの機構学」
- ▽市川洋子助教「心理学」
- ▽佐藤宣夫教授「電気回路及び演習」
- ▽福岡尚助教「現代社会論」
- ▽井上泰志教授「材料物理学」
- ▽鴻巣努教授「プロジェクトマネジメント概論」
- 「ユーザービリティエンジニアリング」
- ▽田隈広紀准教授「プロジェクトエンジニアリング」
- ▽東條晃次教授「数学基礎」
- ▽南澤磨優准教授「環境科学概論」
- ▽引原有輝准教授「スポーツ科学」

（順不同）

## ▼実験動物 慰霊祭開く

実験動物の平成28年度慰霊祭が9月21日、津田沼校舎2号館で行われた。写真。教育研究に貢献してくれた実験動物を供養するため毎年開かれている。

小宮一仁学長と教職員・学生約100人が参加。順番に献花し、動物たちに感謝と哀悼の意を捧げた。

本学は科学技術の発展がこれら動物たちの犠牲の上に成り立っていることを再認識し、強い倫理観を持って教育・研究を進める。



株式会社鶴弥 常務取締役  
 やま うち 山内 浩一さん (60歳)  
 (昭和55年、工業経営学科卒)

ねた。約40人いたメンバーの注目は、そろそろチームになりかけのコンピューターゲーム。穴を打った紙テープの信号をもとに、ブラウン管上でピンポンやテニスのボールを往復させたり、ドライブینگゲームの画面などを作った。初歩の初歩だ。

2年になって1年間世話になったおじの家を離れ、大学

## 学んだ知識が生きた 印刷業から瓦業へ



「勉強にしろ遊びにしろ、何でも体験を」と山内さん

次、大学祭を手伝った。ヒット曲『飛んでイスタンブール』などで知られるシンガーソングライター・庄野真代さんの事務所へ行き、「出演してください」。上首尾で進み、歌声は津田沼キャンパスに響き渡ったが、「別世界をのぞくようで面白かった」という。

人生を変える出会いは4年次にやってきた。無駄を省く「トヨタ生産方式」を卒業研究テーマに、愛知県豊田市

「まだインクの香り漂う新車力タロクのゲラ刷りを東京のデザイン事務所へ届けるため作業服のまま新幹線によく飛び乗った。周りほとんどスーツ姿。いささか恥ずかしかった」

そこから1800度異業種の瓦メーカーへの転身も勇断といえよう。しかも「大学で学んだ知識がやっと生きた」というから、人生何が辛い

家造りで肝心なのは風雨を防ぐ屋根。「だが、この業界へ入るまで興味がなかったんですよ」。愛知県を地盤にする三州瓦製造のリーディングカンパニー「鶴弥」常務取締役、山内浩一さんは苦笑を交え、そう打ち明けた。武道6段の強者とは思えぬ穏やかな口調である。

粘土瓦の3大産地は、三州瓦をトップに、石州瓦（島根県）、淡路瓦（兵庫県）。そのいずれとも山内さんにゆかりはなかった。北海道での高校を終えるまで炭鉱で采れた芦別市と工業都市・苫小牧で育ったからだ。千葉市内に住むおじを頼り、首都圏に近い本学へ。

キャンパスライフの中心は、4年間を過ごした「工業経営研究会」サークルであった。中高生のころ部活や町の道場で鍛え、剣道3段、柔道2段、空手初段の腕前。もし武道3種競技でもあればノミネットされそうだが、「大学では文化活動を」と同研究会を選んだという。

軽井沢や逗子で合宿し、芝浦工大など他大学と交流を重

からそう遠くないところに下宿した。当然、たまり場に。家庭教師のバイトなどをしていたが、ぜいたくなことに部屋へ「家電」を引いていた。酒が入り、「実家へ掛けていかな」と受話器を握られたら断れるはずはない。沖繩、熊本、同郷の北海道へと友人らはダイヤルしまくり。「翌月の請求額は万単位。びっくりでした」。楽しそうに思い出す。

もうひとつ、脳裏に焼き付いていることがある。3年の関連会社寮で約1カ月世話をした。名古屋市内にいた別のおじが知り合いの会社を推してくれた。ときに、のどから手が出るほど企業が人を求めたバブル経済（1986〜90年）の門口まであと約6年を要する就職困難期であった。

ともかく、卒業と同時に徳印工業（現・徳徳印刷、愛知県）へ入社。トヨタ自動車のニューモデルの印刷や株式市場準備室などを担当し、今いる鶴弥へ田満に迎えられる1990年まで10年勤め、その間、地元出身の奥さんと結ばれた。

「最初はインクの香り漂う新車力タロクのゲラ刷りを東京のデザイン事務所へ届けるため作業服のまま新幹線によく飛び乗った。周りほとんどスーツ姿。いささか恥ずかしかった」

そこから1800度異業種の瓦メーカーへの転身も勇断といえよう。しかも「大学で学んだ知識がやっと生きた」というから、人生何が辛い

最初は株式上場の準備を担い、それが済むと製造部門へ。約200種類、色だけでも30種類は下らない瓦の世界。屋根と同じく形状は複雑で、自動化した工場と自動化になじまない工場がある。いかにロスを低減するか。労働集約型の製造ライン組み立てに本腰を入れた。その後、台風で飛ばない突起付きの防災瓦（スーパーライリー0）の開発・製造に携わってきた。業界では「画期的」とされる技術だ（2001年取締役、14年常務）。

「勉強にしろ遊びにしろ、なんでもいっしょに体験を。必ず後で役に立つ」と若い人に言ってきた。週末にはクランシックコンサートやジャズを聴きに名古屋まで足を伸ばす。小さいころ音楽教室で嫌々覚えたピアノも少し弾く。まさに文武両道。「でも、体の方はもう言うことを利きません」

# 宇宙教育ブース 展開

### ▶ 能代イベント PERCプロジェクトを紹介

秋田県能代市で開催された「第12回能代宇宙イベント」(あきた宇宙コンソーシアム主催、8月18~25日)の一般公開日に当てられた21日、本学



は入試広報部が中心となって会場にPRブースを開設し、宇宙からの流星観測が始まった「メテオ」など惑星探査研究センター(PERC)のプロジェクトを紹介。子ども向けの工作教室を開

たり、来場者にチバニーグッズなどを配布した。また、ハイブリッドロケットの製作・打ち上げに挑んでいる学生団体「SPARK」と、人工衛星製作を目的にこの春完成された「凧」のメン

バー合わせて8人が参加して、全国から集まった学生などと交流した。一般公開日に合わせて行われた開会式では、小宮一仁学長があいさつして、最近の本学の躍進ぶりをアピール。地元紙の

北羽新報で紹介された。2005年に第1回が開催された能代宇宙イベントに参加する大学生は年々増加し、今回は全国から500人を超える学生たちが自慢のハイブリッドロケットやチバニー(空き缶サイズの模擬衛星)を携えて集まった。

また、中学生のモデルロケット秋田県大会や高校生のロケット甲子園、小学生以下を対象にモデルロケット体験打ち上げ教室なども開かれた。

本学は昨年秋田大や和歌山大などとともにこのイベントを共催しており、今回は機械電子創成工学科の和田豊准教授が副実行委員長、PERCの前田恵介研究員が事務局を務めた。またPERCの秋山亮亮(ひろあき) 主席研究員は美質的な「生みの親」として、この催しを「日本最

大の宇宙教育イベント」に育て上げた。PERCで低融点の熱可塑性樹脂を燃料とする小型観測ロケットの開発に挑んでいる和田准教授は「本学が能代宇宙イベントで中心的な役割を果たすことの意義は大き

い。また機械電子創成工学科の演習としてロケットや人工衛星の製作をやりたいと考えており、その実践の場としても利用させてもらいたい」と話している。

今年度PPA地区懇談会では、広島、福岡の会場幹事を務めさせて頂きました。そして、9月10日の広島会場終了後、それは起こりました。プロ野球で25年ぶりに広島東洋カープがリーグ優勝を飾ったのです。

街中が異様なまでの熱気に包まれており、巨ファンのおかげでこの瞬間を共有することができ、嬉しく思いました。振り返れば、今回の広島カープは、黒田投手(41)や新井内野手(39)など私(40)と同年代のベテランと言われ、選手がプレーで若手を牽引し、培った経験から精神的な支柱となつてチームの勢いを後押しした印象があります。

## 新任紹介

教員

枚田 明彦 (情報通信システム工学科 教授)

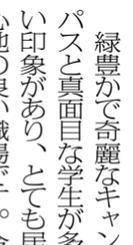


とても奇麗で便利な職場です。組織としてのシステムがしっかりしている印象です。1年後の学生配属に向けてしっかり研究室を立ち上げ、活気ある研究室にしていきたいです。



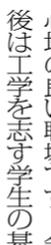
趣味は登山、マラソン。(教育センター 助教)

佐藤 和 (教育センター 准教授)



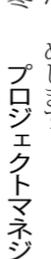
緑豊かで綺麗なキャンパスと真面目な学生が多い印象があり、とても居心地の良い職場です。今後は工学を志す学生の基礎力となる教養がしっかりと身につくように、良い授業を行いたいと思っております。

八幡名誉教授が死去



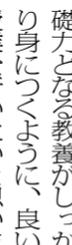
炎のため死去した。73歳。八幡氏は昭和42年、本学に助手として就任。平成4年、教授に。学資委員会や入学試験委員会、学生委員会の委員を歴任し、41年間にわたり大学の発展に貢献した。

## 四季雑感



芸術の秋にちなんで音楽のお話など。私には学生時代に友人宅で聞いて以来これ33年間でフリークを続けているミュージシャンがいます。

## PPA



間を共有することができ、嬉しく思いました。振り返れば、今回の広島カープは、黒田投手(41)や新井内野手(39)など私(40)と同年代のベテランと言われ、選手がプレーで若手を牽引し、培った経験から精神的な支柱となつてチームの勢いを後押しした印象があります。

## 編集だより



母が体調を崩したの知らせを受け、一瞬の里帰りをした。実家で酒屋を営む両親は、大晦日と私達兄妹の結婚式以外で休んでいた記憶がない。そんな母が寝込んでいたとなつと、さすがの私も、少し不安になった。

いつも帰省した際は、部屋の1人で就寝。あまりの静けさに、久しぶりに波の音が聞こえた。当たり前だが、このあたりでなくとも、この季節五輪テーマ曲となり、閉会式での熱唱は全世界に放送されました。スマホでS.M.A.Pと歌の共演をしました。出雲大社や世界遺産平泉といった神聖な場所でもコンサートをしました。誰だかさっぱりわからない? 無理もありません。テレビには出ないため知名度は低いです。正解は『角松敏生』。聞きたい音楽がないとお嘆きの方にお勧めします。

プロジェクトマネジメント学科 下村 道夫

## 会場を彩るランタン

### ▼ 習志野市民まつり 本学学生らが講座

毎夏に開催される習志野市民まつりの「習志野きらっと2016」(7月27日)市民の実行委主催)で、本学の文化会電気研究部部長・浅野拓真さんII電気電子情報工

学科3年と一般社団法人文教科科学開発機構(講座担当・宇津野仁史さんII電気電子情報工学専攻修士2年)が「ものづくり体験講座・みんなで作るイルミネーションプロジェクト」を開いた。

文教科科学開発機構は、習志野市内を中心に体験教室などを開いてきた本学「理工学教室実行委員会」をより継続的な活動にしようとして今年、本学OB・在学生が創設。25年

度CITものづくりのテーマの1つ「工作教室」を手始めに活動している。講座には幼稚園児から小学生までの親子69組が参加。自分だけの電子ランタンオブジェを作り、会場に灯すという企画で、親子たちはガラス器に思い思いの模様を描き、LEDを仕込んだ。

出来たランタンは市役所前の会場に飾り付け、夜7時から点灯。LED1万5千球の仲間入りをした会場に美しい光を放った。ランタンは終了後、記念写真を添えて各親子に手渡された。

講座を指導した宇津野さんは「自分の作ったもので人々に喜んでもらうという体験を通してもらった。ものづくりで得られる達成感、想いを少しでも理解してもらえたのではと話した。



手作りのランタン

習志野市民まつり 本学学生らが講座

会場を飾ったイルミネーション



会場を飾ったイルミネーション



母が体調を崩したの知らせを受け、一瞬の里帰りをした。実家で酒屋を営む両親は、大晦日と私達兄妹の結婚式以外で休んでいた記憶がない。そんな母が寝込んでいたとなつと、さすがの私も、少し不安になった。

いつも帰省した際は、部屋の1人で就寝。あまりの静けさに、久しぶりに波の音が聞こえた。当たり前だが、このあたりでなくとも、この季節五輪テーマ曲となり、閉会式での熱唱は全世界に放送されました。スマホでS.M.A.Pと歌の共演をしました。出雲大社や世界遺産平泉といった神聖な場所でもコンサートをしました。誰だかさっぱりわからない? 無理もありません。テレビには出ないため知名度は低いです。正解は『角松敏生』。聞きたい音楽がないとお嘆きの方にお勧めします。

プロジェクトマネジメント学科 下村 道夫

秋到来! しんみり、じっくりと色々なことに思いをはせるにはいい季節だ。との急ぎ、どんな親孝行が出来るか考えてみようと思う。

入試広報課 大橋 慶子